

## コミュニティ協議会の今後の方向性と取組・施策について

### 1. 現状と課題

#### (1) 地域コミュニティ協議会の組織と活動目的の再確認

- ・コミュニティ協議会実態調査アンケートから、活動や参加者を増やしたいという協議会の“ありたい姿”に対し、財源や構成団体を増やす予定がないという“行動”にずれが生じているという現状がある。
- ・コミュニティ協議会という組織と活動の目的を全体に定着させる必要がある。(※1)

#### (2) 地域住民の参加・参画の促進

- ・事業の内容や実施方法が固定化すると、参加・参画できるメンバーも固定化する傾向にあり、新たな人材の取り込みや地域のネットワークが広がらない一因となっている。また、共働き世帯の増加など労働環境の変化やSNS等の多様なコミュニケーションツールやWebサービスの普及に伴い、若年層を中心に地域コミュニティ離れが進んでいることから、誰もが参加しやすい仕組みづくりの整備が必要となっている。
- ・青少年健全育成の観点から、見守られる側として関与してきた小中学生についても、ともに地域をつくりあげる一員として関わるきっかけを早いうちからつくることで、将来的な地域の担い手としても期待される。

#### (3) リーダー及び担い手の育成

- ・コミュニティ協議会実態調査アンケートにおいて、今後は活動の質を高め、さらに参加者を増やしたいという声が多いが、その実践方法を学ぶ機会が不足していることもあり、役員など担い手の更なる力量形成が必要となっている。

#### (4) 行政の連携・協力体制の充実

- ・行政が策定する教育や福祉、安心安全など様々な計画で地域との連携が求められているが、これらの計画に対するコミュニティ協議会の位置付けが明確でないことから、整理する必要がある。(※2)
- ・地域づくり推進課と関係各局との連携・協力体制の充実が引き続き求められる。特に令和5年度から市内全ての小・中学校に学校運営協議会(コミュニティスクール)制度が導入されるのを契機に、学校とコミュニティ協議会の更なる連携が進むことから、行政も地域と学校(生涯学習)をリンクさせる協力体制を構築していく必要がある。

### 2. 施策の基本的方向性

地域コミュニティ協議会が町内会などの構成団体と連携しながら住民主体のまちづくりを進められるよう地域活動を支えるリーダーなどの人材育成や幅広い世代が気軽に参加できる環境づくりを推進するほか、地域団体等とのさらなる連携による地域づくりに取り組みます。(第六次鹿児島市総合計画より)

#### 委員に確認いただきたい点

##### ※1

#### コミュニティ協議会という組織の目的と役割

(組織の目的) 【鹿児島市地域コミュニティ協議会の設立等に関する要綱】

(コミュニティ協議会は) 活力ある地域コミュニティづくりを推進するため、地域コミュニティにおいて市民が参画し、多様な地域活動を行う地域コミュニティ組織の有機的な連携を図り、地域の課題解決や資源活用など地域主体のまちづくりを目的とする。

(組織の役割) 【鹿児島市コミュニティビジョンなど】

- ・地域の多様な主体による公共サービスの情報共有と連携
- ・多様な主体による公共サービス提供の相互補完と総合的、包括的なマネジメント
- ・自主的・主体的な地域の課題解決や地域資源の活用の企画・実施

(活動の目的) 【鹿児島市コミュニティビジョン】

地域で暮らす人々がお互いに信頼して助け合い、安心して暮らすことができ、また、地域で元気になることができる、活力ある豊かな人間関係が築かれた地域コミュニティの実現を図る。

##### ※2

#### 各種計画に対するコミュニティ協議会の位置づけ

本市計画では、多くが地域と連携して各種取組みを進めるとしており、その中にはコミュニティ協議会を例示しているものがある(地域福祉計画など)。コミュニティ協議会はその役割からそれぞれの分野で活動する構成団体との連携を図り、地域の実情に応じたマネジメントを行う組織として整理。

##### ● 鹿児島市地域福祉計画(一部抜粋)

地域の福祉活動を効果的に展開していくため、校区社会福祉協議会や地域コミュニティ協議会など地域の関係団体は、お互いに連携を図る。

3. 今後必要な取組・施策

協議会という組織と活動目的の再確認	地域住民の参加・参画の促進
<p>&lt;協議会&gt; 協議会内での話し合いの推進</p> <p><b>具体的な取組（例）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>役員会での勉強会の実施</li> <li>構成団体や地域住民を対象としたワークショップの開催</li> </ul>	<p>&lt;協議会&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>だれもが気軽に参加・参画できるきっかけ・仕組みづくり</li> <li>地域の様々な主体の取り込み</li> </ul> <p><b>具体的な取組（例）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>参加・参画しやすくなるためのICTの活用や開催時間の工夫</li> <li>地域活動に関心のある企業との連携</li> <li>コミュニティスクールの導入に併せた小中学生の参加・参画の促進</li> </ul>
<p>&lt;市&gt; 協議会という目的の再確認</p> <p><b>具体的な施策（例）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニティ意見懇話会報告書の作成・周知</li> <li>協議会への啓蒙</li> </ul>	<p>&lt;市&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>好事例の共有やガイドラインの作成</li> <li>コーディネーターによる課題解決型の支援</li> </ul> <p><b>具体的な施策（例）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市ホームページにおける好事例集の充実</li> <li>事業計画やICT導入等のガイドライン作成</li> <li>コーディネーターの部会等への派遣</li> <li>企業表彰の導入</li> </ul>
リーダー及び担い手の育成	行政内の連携・協力体制の充実
<p>&lt;協議会&gt; 役員等の担い手の育成</p> <p><b>具体的な取組（例）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習に関する役員への啓蒙(学びの必要性)</li> <li>市が提供・紹介する学習機会の活用</li> </ul>	<p>&lt;市&gt; 行政内部の連携強化（教育、福祉、安心安全等）</p> <p><b>具体的な施策（例）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニティスクール導入に併せた協議会と学校との連携推進</li> <li>協議会を対象とした関係部局の事業把握</li> <li>担当者ミーティングの充実</li> <li>部局間連携事業の検討・実施</li> </ul>

4. 協議会へのメッセージ

資料2

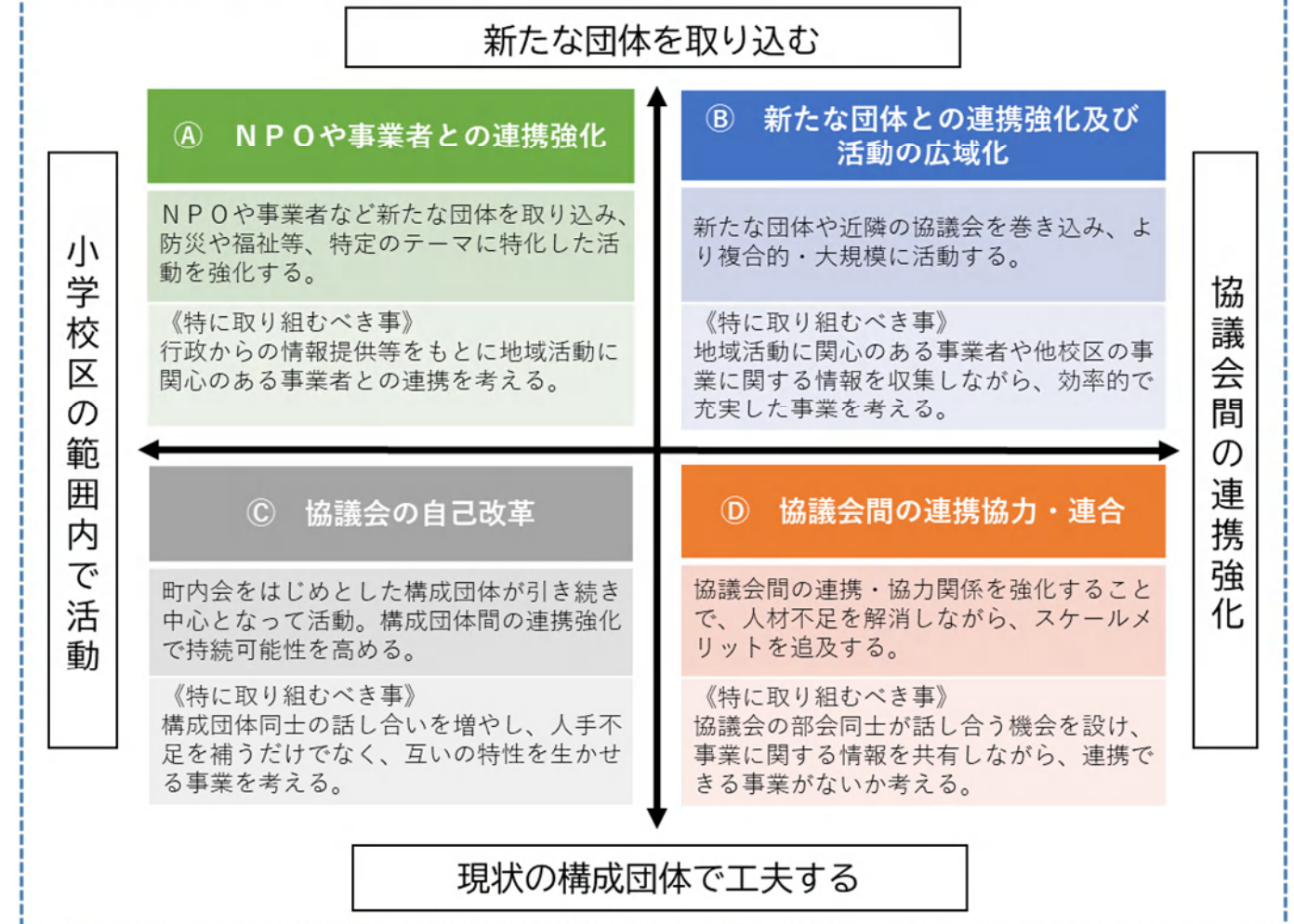
すべての協議会に必要な3つの取組

協議会という組織と活動目的の再確認	地域住民の参加・参画の促進	リーダー及び担い手の育成
地域の様々な主体が地域課題の解決や地域資源の活用に向けて連携協力する場となるのが協議会です。各事業に取組む目的を見失うことなく、その一方で既存の方法・事業に縛られない柔軟な対応も求められます。	担い手不足を解消するためにも、誰もが参加しやすい仕組みづくりが重要です。一度関わると抜け出せなくなるのではなく、気軽に参加・参画できる“緩やかな”つながりを築いていくことで、新たなに地域のネットワークを広げていく必要があります。	地域活動を盛り上げていくには、部会の活性化が必要不可欠です。部会で活躍する方々が他の協議会の事例や活動を充実させる実践的な手法を学び、活動をより良くしていこうと向上心を持つことが、自身の取組みへの満足度を高める第一歩となります。



更なる発展・充実に向けた4つの選択

協議会間の連携（横軸）と新たな団体の取り込み（縦軸）に関する方向性を選択することで、各地域の実情にあった更なる発展と充実を目指す。



5. 目標指標

内容	現況	R 8
協議会の活動への参加団体数【六次総計目標指標】	2,928 団体 (R3.4 時点)	3,100 団体 (現況比×1.05)
協議会の活動への参画人数 (担い手不足の緩和)	未確認	R5 年度×1.05